

2020年8月1日

ほしぐらサロン 2020年6月議事録

文責:石橋 愛理

日 時: 2020年6月27日(土) 18:00~22:00

場 所: ユリックス会議室 1

参加者: 荒巻*, 篠原*, 高尾(辰), 高木, 濱島, 町田*, 松井, 宮田*, 與古光*

(50音順、敬称略)

職 員: 小野田*, 平野, 角田, 石橋, 阪本

計 14名

* リモート(Zoom)参加者

※4月から引き続き、Web会議サービスの”Zoom”を利用して行った。

1. 今後のウォッチングの実施について

1-1. 観望会における新型コロナウイルス感染症対策

アイピースを介した、眼からのウイルス感染の可能性が懸念されている(アイピースを直接消毒することは避けたい)。先月に引き続き、今後のウォッチング実施の方法について話し合いを行い、以下のような提案があった。

- 1) 参加者全員にメガネを貸し出す(宮田)
- 2) アイピースの上にフィルムケースのようなものをかぶせ、参加者の眼とアイピースが直接触れないようにする。但し、利用の都度、フィルムケースをアルコール消毒する必要がある(篠原)
- 3) 望遠鏡本体のアイピース部分に、土台を設置し、透明フィルムを利用の都度入れ替えてフィルム越しに見てももらう(濱島)
- 4) 紙コップの底に穴を開け、望遠鏡を覗く際に各自アイピースの上から被せてもらい、アイピースに触れないように紙コップ越しに見てももらう。育苗用のポットを使っても良いかもしれない(宮田)

以上のうち、まずは4番目の案のテストを行う予定。一方で、そもそも眼からのウイルス感染の可能性があるのか、今後も情報を精査し、他館の様子も見ながら検討、話し合いを行っていく必要がある。

1-2. 8月22日のウォッチングでのプラネタリウム解説の有無

一般のプラネタリウム収容人数を最大20人としている(7月31日現在)。観望会でのプラネタリウム解説の実施の有無について、話し合いを行った。

角田: 本来、市などの規定では定員の半分(40人)は収容して良いことになっているが、自主的に定員を20人としている。観望会当日は、40人限定でプラネタリウム解説をしても良いのでは。

宮田: 先日の部分日食ウォッチングは150人ほどの参加があった。参加者が密集してしまう可能

性もあり、やや厳しいのでは。

篠原：先着40人限定で、整理券を配布するはどうか。

宮田：限定とすると、プラネタリウム解説に参加できなかつた人が残念に思うのでは。

篠原：中止にするのは簡単ではあるが、ウォッチングでも可能な範囲で、自分たちができる事を行うのがいいのではないか。

-->先着40人限定とし、当日18時30分から整理券を配布することに決定。

1-3. 8月22日のウォッチングの望遠鏡の並べ方

当日、木星と土星を見てもらう予定。参加者を密集させないよう、どのように望遠鏡を配置するか。

角田：人々の滞留(長時間滞在)を避けたい。通常は木星観望の列、土星観望の列、など天体によって列を分けているが、今回は列を1つにしてみては。一度にいくつか天体を見てもらいたい、見終わったら帰ってもらう。列自体は長くなるが、来場者の滞在時間は短く出来るでは。

今後のサロンでも、観望会のやり方について話し合いを行う。

2. ほしざら合宿について

先月から、合宿実施の可否、開催時期について検討している。5月のほしざらサロンでは、9月連休ごろ開催の提案があった(篠原さんより)。現在は、感染の状況も鑑み、実施可否と時期について、8月末あたりを目処に決定したい。

3. クリスマス番組の制作について

例年、ボランティアとクリスマス番組の制作を行っている(昨年の制作はなし)。今年は番組の制作を行うか。

濱島：新型コロナウイルス感染症、とくに冬頃は流行の第二波が懸念される。今年については、番組制作は難しいのでは。

角田：番組制作という形態だけに拘らず、クリスマス時期の活動できたらと思う。工作教室など、実現可能なアイデアがあれば提案いただきたい。過去、オーロラ投影機を製作した。今年は来場者へ向けた缶バッジ製作など良いのでは。アイデアがあれば、掲示板などでも記入いただきたい。

4. 今年度のほしざら友の会について

今年度は中止。

次回のほしざらサロンは、8月1日(土)です。